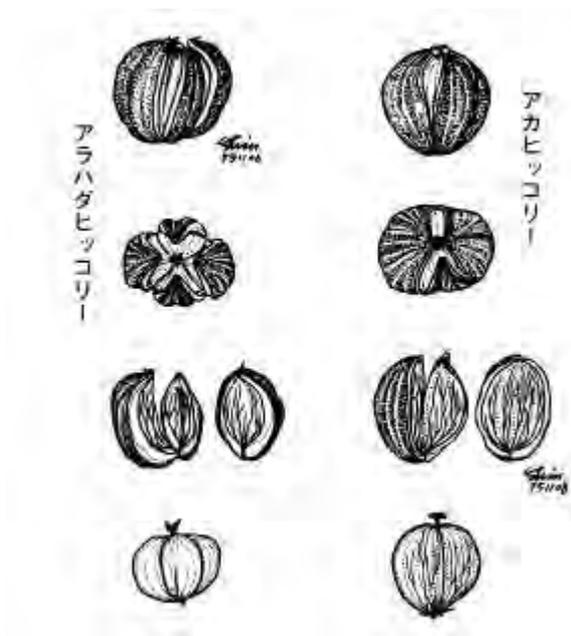


ヒッコリーの核果



クルミ園に果実が落ち、裂けて、核果が顔をみせる季節になった。去りし夏グラスに映し胡桃割る、という夜長である。仲間のヒッコリーも、そろそろ落ちはじめた。

優良材や核果の生産、あるいは緑化樹として、北海道に植栽されたヒッコリーには、2種があって、なかなか見分けにくいですが、核果でならたやすく区別できる。ともに北アメリカ東部の原産である。アラハダヒッコリー(シャグバークヒッコリー)は、果肉が厚く、はっきり4裂開し、核に稜があり、扁平である。アカヒッコリーは、はっきり4裂せず、3裂も多く、核はほぼ円い。

各 10 個の測定平均値は、次のようであった。

		高さ	幅	厚さ	重さ
アラハダヒッコリー	果実	20 mm	28 mm	22 mm	5.4 g
	核	15	20	14	2.2
アカヒッコリー	果実	22	23	20	5.5
	核	19	20	16	3.1

(自然保護科 斎藤新一郎)